

令和5年度 江戸川区立篠崎中学校学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート） 1

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく学び、深く考える生徒 すすんで体を鍛える生徒 思いやりと規範意識のある生徒 社会に貢献する生徒 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が通いたい、保護者が通わせたい、教員が働きたい学校 主体的に考え、行動できる生徒 生徒のやる気に火をつけられる教師
前年度までの本校の現状	成果 学力は、一定程度の成果が出ている。教師が生徒と接する時間を設け、生徒理解に基づいた指導が一定程度できている。各分掌におけるマニュアル等が整備されており組織的対応がなされている。地域行事については、コロナにより中止になっているが、例年生徒の参加は積極的である。	課題	読書科指導方針に準拠した読書科の指導へ改善する。人権意識の滋養については今後も継続して取り組みを強化する。働き方改革も含め、ICTを活用した業務の効率化を図る。通常の学級と特別支援学級について交流及び共同学習を図る。学校財産については、整理・整頓を図る。

重点	取組項目 評価の視点	具体的な取組	数値目標達成度			「中間」 学校関係者評価(A~D)		「年度末」 自己(学校)評価(A~D)		「年度末」 学校関係者評価(A~D)		次年度に向けて		
			数値目標 (赤字が変更事項)	達成度		10月現状・追加取組 (赤字が追加取組)	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見	継続・ 廃止
				10月	2月									
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①学習サプリ講座（教師による質問教室）の実施 ②放課後補習の実施（数学・英語）	国学力調査 平均正答率 東京都の平均以上 参考：令和4年度 数学2ポイント高い 英語1ポイント低い （※英は令和元年度）	B	B	○国学力調査（都比較） 国語2ポイント高い 数学1ポイント高い 英語1ポイント低い ○サプリ講座は、定期考査時に各教科2回実施 ○放課後補習、年間151回実施。57人が参加。	B	○学力は安定して高いが、外国語（英語）への取組が課題。全校を挙げての取組を行いたい。 ○放課後補習の回数は十分。参加者数の拡大をしたい。 ○生徒の生活リズムを変えないと、これ以上高くするのは難しいかもしれない。 ○1年生でしっかり力をつける。	B	○補習がサロン化するのには仕方がないが、テスト問題の漏洩が疑われるのであれば、廃止もやむを得ない。 ○どうしたら楽しく勉強ができるかの工夫をしてみても良いのではないかと。楽しく学べる様中。 ○英語科やC層などポイントを絞って放課後補習を行うなどの工夫をしたい。	B	○補習がサロン化するのには仕方がないが、テスト問題の漏洩が疑われるのであれば、廃止もやむを得ない。 ○どうしたら楽しく勉強ができるかの工夫をしてみても良いのではないかと。楽しく学べる様中。 ○英語科やC層などポイントを絞って放課後補習を行うなどの工夫をしたい。	今後継続するかは検討、重点としては廃止	廃止
	○読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①読書科指導指針に基づいた「読書科」の実施	調べる学習コンクールに300人以上が出品 参考：令和4年度 0人	D	○第一学年のみ176名 ○2名が全国大会へ出品	B	○今年から取り組んだので今後に期待します。 ○読書の時間も大切にしたい。	C	各学年の読書科活動の精査を行い、全学年が体系的に取り組んでいけるように検討していく。	C	○一年生が頑張っているため、今後に期待。	全学年での取組に強化	継続	
体力向上	○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実	①保健体育科の授業における補助運動の充実 ②フィットネスエリア設置の検討	体力調査にて、D・E層の割合が、男⇒30%女⇒20%以下 全校で20%以下に変更 参考：令和4年度 全体31.3%（東京都は29.4%）		B	R5年度 D・E層の割合 ○1年男子50%女子15.8% ○2年男子27.9%女子9.2% ○3年男子20%女子21.7% ○全校 22.9%	A	○補給運動の充実・・・特に劣っている体力を取り入れて（準備運動）一連の流れを作る。 ○運動部に入っていない生徒でも無理なく体力が向上する工夫が必要。	B	数値目標の達成はできなかったが、全体としての数値を上げることが出来た。今後は、再度、体力テストの意義や方法を生徒に徹底する。また、本校の弱い項目について、今まで以上に強化し、取り組んでいく。	B	○体力調査は生徒が本気を出すかがポイントです。モチベーションを上げて下さい。 ○篠中独自の運動を取り入れてみては。毎日出来る運動 ○コロナ禍後の体力回復については一定の成果が見られた。フィットネスエリアの活用を一般の生徒にまで拡大したい。	体力調査の分析を行い、特に弱点克服に焦点化	継続
			フィットネスエリア設置	A	A	フィットネスエリアは設置済み。 トレーナーも雇用済み。	B	○フィットネスエリアはとてモユニークな取組。今後期待。 ○ここまで本格的はすごい。	B	設置を行ったが、休み時間に一部生徒、及びサッカー部が使用するなどの事例ができてきた。しかし、稼働率については、課題が残っている。	B	活用率の向上に向けた取組を強化	継続	
子どもたちの健全育成	○自他の生命を大切にしたい取組の充実	①「考え、議論する道徳」の充実 ②「いじめ」を題材にした道徳授業の実施 ③職員研修の実施	・いじめに関わる授業を年間3回実施 ・いじめ重大事案0件	未	B	○浅草のフィールドワークの実施 ○江戸川児相の施設見学の実施 ○重大事案0件。但し、いじめはあり	A	○重大事案0件は評価できる。小さいいじめの芽を見つける取組、未然防止の取組を十分にしたい。 ○フィールドワークを学校単位で行うのはすこいし、13名参加も意欲がみられる。	B	概ね実施しているが、今後はより効果的な方法について検討していく。	B	○フィールドワークは先生方のキャリアに生きる。 ○いじめは全学校生活の中で指導。 ○道徳公開講座はこれからPR! ○道徳でいじめは減らせる。 ○公開講座については工夫が必要。 ○「考え、議論する」姿を保護者、地域に広くアピールしたい。	ローテーション授業を強化し、多様性を重視	継続
	○Ohyper-QUの活用	①子どもの権利条約に基づいた「きまり」の見直し ②交換連絡ノートによる個々の生徒の理解	学級生活不満足度群要支援群が全体の5%以下	B	A	校則は冬服の着方等一部見直し 標準服在り方検討	B	○hyper-QUの活用は大切だが、数値にとらわれることなく、生徒が満足できる学びづくりに取り組んでほしい	B	防着、再登校の扱いなど見直しを行った。また、生徒会本部が中心となり、見直しの意義について考える機会を作っている。	B	○担任にとってかなりの負担となる。他の方法を模索して欲しい。	取組を変更して更なる強化	廃止
	○不登校対策の実施・充実 ○教育相談の強化	①SC・SSWによる関係機関へのつなぎ ②ほっとルーム（別室登校）による支援の実施 ③オンラインによる授業参加の受け入れ	不登校のうち、外部専門機関につながない生徒0人	B	A	・リストの作成 ○ほっとルーム設置完了 ○OOL授業定着 ○不登校固定級開設	B	○「でん」の設置は一部生徒にとってありがたいと思います。 ○しのだけルーム・SCルーム・ほっとルーム等、充実している。 ○担任の姿が見えない。不登校生徒に対する担任の接し方。	A	要配慮生徒リストを作成し、支援の焦点化が図れた。	B	○今後モ丁寧に、SSW等の活用をしてほしい。	更に充実させる	継続
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	①交流及び共同学習の実施	交流及び共同学習の実施と年間指導計画の作成・実施	A	A	実技教科で、年間を通して1回は実施	B	○副籍交流、共同学習は、積極的に取り組みたい。 ○UDの考え方を生徒とも共有することが必要である。教職員のみ取組にならないようにしたい。 ○副籍交流及び交流学習はともたいたいものです。今後共、工夫を重ねていきたいと思っています。	B	次年度の年間計画も含め、目標は果たされた。一方で、実技教科以外での交流は課題である。	B	○発表はとてもよかった。来年度も継続して実践してください。 ○UDの考え方を広く保護者、地域にも啓発する必要がある。 ○生徒の声も拾いたい。	日常的に実施し、取組を強化	継続
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	①交流及び共同学習を支えるユニバーサルデザインを取り入れた教室環境と授業の工夫・改善	ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善指導事例集の作成		A	○約60ページの事例集完成	B		B	事例集の作成とともに、江戸川区研究の発表を行った。本人や保護者への取組の周知については、今後の大きな課題である。		指導事例を増やすことを目的に継続	継続	
	○エンカレッジルームの活用促進													

【再掲】「子どもたちの健全育成 ○不登校対策の実施・充実 ○教育相談の強化」と同様

令和5年度 江戸川区立篠崎中学校学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）2

重点	取組項目 評価の視点	具体的な取組	数値目標達成度			10月現状・追加取組 (赤字が追加取組)	「中間」 学校関係者評価(A~D)		「年度末」 自己(学校)評価(A~D)		「年度末」 学校関係者評価(A~D)		次年度に向けて	
			数値目標 (赤字が変更事項)	達成度			評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見(案)	継続・ 廃止
				10月	2月									
地域社会に開かれた学校の実現	○地域とともに子どもを育てる取組の充実	①地域と連携した多様な部活動の研究	令和6年度に向けて、複数種目を増設予定	B	A	○部活動指導員1名 ○外部指導員5名増員 ○NPOと共同し、R6 4つ新規部活開設予定	B	○外部指導員を活用するなどして、生徒の選択肢を多く維持し、沈滞しないようにしてほしい。	A	現在、NPOと連携を図りながら、指導者の確保に努めている。さらには、次年度、NPOや地域人材にお手伝いいただき、新部活動を開設する予定である。	A	○早急に成果は出ないと思います。年を重ねて生徒の意識の中に浸透させてください。	次年度に向けて、文化部を中心に部活動を増設	継続
		②1人1ボランティア運動の推奨	ボランティアに参加した生徒が50%以上	C	C	○「ペットボトルキャップ集め」などの全校での取組を実施		○ボランティア活動の参加者をもう少し増やしたい。すべての生徒が何らかのボランティアを経験できるとよい。	B	ペットボトルキャップ集めなど、ボランティア活動は充実しているが、その活動がボランティアであるという認識が薄い。小さな活動を今後も継続していく。	B	○NPO法人との連携による部活動の地域移行については順調に進んでいる。	ボランティアセンターと連携し、強化	継続
	○学校(園)ホームページの充実等 ○学校(園)公開の実施・充実	①ICTの多様な活用の研究	「(仮称)篠中チャンネル」の作成配信	D	D	○10月現在投稿なし	B	○ICTを利用した外部発信は広報とセットで行ってほしい。	C	「篠中チャンネル」は開設していない。合唱コンを生徒が自宅で鑑賞できるようにした。今後、行事などを公開できるようにする。HPの公開については、今後検討する。	B	○学校に対する関心が地域では薄いのが現状では？保護者を参加できる事ができないか。 ○篠中チャンネルの開設に期待。	本年度できなかった部分を強化	継続
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校関係者の助言者の活用	有識者枠の設定 コミュニティスクールの設置準備が追加	B	B	○大学教授を招聘 ○コミュニティSCの開設準備スタート	B	○コミュニティスクールとは何かの共有が第一である。保護者の理解は十分であろうか。	B	学校関係者評価の実施や学校評議員会などでご意見をいただきつつ、改善・充実していく。コミュニティSCについては、今後の大きな課題である。	B	○コミュニティスクールについては保護者、地域対象の説明会で実施していく。	公開での学校運営協議会を開催するなどして、取組を強化	継続
特色ある教育の展開	○あらゆる手段を講じての働き方改革の推進	①ICTを活用した業務の効率化	月60時間以内を年間6カ月以上の教員が7割以下	C	D	○オンライン授業を日常的に実施 ○定期考査の仕方等、採点ソフト導入 ○働き方推進プラン完成	B	○教職員の考え方の変革に取り組みたい。 ○学校、地域、行政が連携し、是非改善を進めていただきたい。	B	採点ソフトの一部導入、Formsによるアンケートの実施で集作業の軽減が行われた。一方で、長時間労働には、課題が残る。数値目標も含め、見直しを図るべきである。	B	○必要な時間は使うべき。なんでも働き方改革にしてはダメ。 ○働き方改革推進計画については骨子は完成したので、教職面への徹底が次なる課題になる。	情報教育部を立ち上げ、業務効率、授業力、情報発信について向上させる	継続
		②学校経営支援部の活性化		B	適宜実施している	C		働き方改革推進計画について、4月以降その進捗を丁寧に図る。	B		取組は継続するが、重点としては廃止	廃止		
	○効率的な事務の運用	①学校が管理すべき財産の整理・整頓	整理・整頓すべき財産の見直し	A	A	○誰でもトイレ、来賓トイレのウォシュレット設置、全教室のUD化、教育相談室・木工準備室の整理、ほっとルームの設置、PC室・PC準備室の整理	A	○使いやすい学校生活環境の整備はとて評価できる。 ○全部が改善されれば、いい設備になる。準備室をきれいにするのはいい発想である。 ○学校事務も含めて貴重な財産管理運営に今後共心がけてほしい。	B	随分と整理されてきてはいるが、印刷室やプール下倉庫など、整理すれば有効活用できるスペースは、まだある。今後、整理の仕方を含めて、計画的に実施していきたい。	B	○事務、用務、栄養士、養護などの一人職のやる気をうまく引き出してください。 ○学校環境の整備は順調に進んでいる。生徒の声も拾いたい。	デッドスペースの有効活用のために取組を強化	継続
○給食指導等を活用しての食育の充実	①SDGs給食の実施	年間を通して実施	B	A	○家庭科と連携した生徒が考えた給食の提供を計画	B	OSDGSの食育はユニーク。今後も継続したい。	A	SDGs給食の他、3学期に実施した生徒の考えた給食の提供は貴重な取組である。今後も更なる取組を提案していきたい。	A		新たな食育としての取組を強化	継続	